

和歌山だよいい

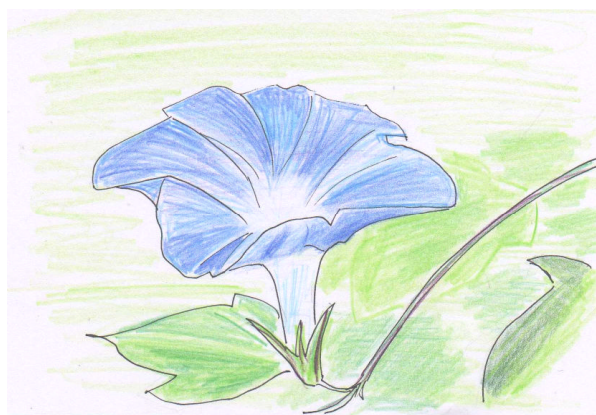
平成20年 8月号
(2008)



高野山の壇上伽藍は、弘法大師が真言密教の思想を具現化した聖地です。根本大塔（右）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P9
3. お知らせ…………… P10～P12
4. ふるさと歳時記…………… P13



朝顔

「大好き和歌山」

先日「大好き日置川の会」の方々と対談しました。地元日置川が大好きな方々が、何とか地元を売り出そうと頑張っておられる姿に接し、感激しました。その中で、大都会に暮らしていて、旅行で遊びに来てここがすっかり好きになり、ついに住みつくようになりましたという方もおられました。

日置川に限らず、和歌山には、普段住んでいる自分達が気がつかない良い点がいっぱいあるという思いを強くしました。地域資源がいっぱいあるということです。

あとはこの地域資源をどうやって生かしていくかというのが当県の課題です。観光とか移住交流とかの点では、そのポイントは「他にない珍しさ」だと思います。県のヒット政策である「ほんまもん体験観光」は田舎暮らしの体験をしてみたいという都会の人々を年間29万人も集めています。大都会になくて、和歌山にあるものを、大いにアピールして、大勢の人々に来ていただきたいものです。

その際、ポイントは「珍しさ」だから、和歌山のよさを「俗化」させないような配慮が必要です。景観条例や自然保護に力を入れているのはそのためです。また、来県者に特産物も出しましょう。和歌山県の人どうしは牛肉でおもてなしをするのが好まれますが、大都会から来た人は、イノシシやシカをうまく料理してお出しすると感激するはず。珍しいからです。これは、鳥獣害対策にも随分なると思います。

もっとも、すべてむき出しの地元というだけでは多くの人々が味わいにくいと思いますので、トイレをきれいにするなどうまく配慮して提供をする工夫も必要でしょう。我々は皆大好き和歌山の会員やもんね。

和歌山県知事

仁坂吉伸



*このメッセージは、県広報紙「県民の友」（9月号）に掲載するものです

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●関西国際空港就航便の確保に関する要望を日本航空㈱、全日本空輸㈱、国土交大臣に行いました ～近畿ブロック知事会（会長 仁坂知事）～

・関西国際空港の発着便について、大幅な減便が検討されていることを受け、近畿ブロック知事会（会長 仁坂和歌山県知事）は、先手を打っていち早く行動し、7月24日、仁坂会長を先頭に日本航空㈱西松社長、全日本空輸㈱山元社長、冬柴国土交通大臣等に関空就航便を確保するための要望活動を行いました。

・関空は、日本で唯一、長距離滑走路を2本備え、24時間運用可能な世界標準空港として、我が国の人流、物流を支えています。また、海外30カ国・地域、71都市への国際線ネットワーク、全国21都市への国内線ネットワークを有するアジアのゲートウェイであり、関西の国際交流の拠点です。

・関西が発展するためには交流の中核拠点となる国際空港の充実が不可欠であり、国際空港には国際線を集約し国内線へ乗り継ぐ機能が必要（ハブ&スポークの理論）です。仁坂知事は、「国内線の減便は、関空のハブ&スポークの機能を低下させる。長期的な視野に立って、関空の減便や路線運休を考え直して欲しい。」と強く要望しました

●「2008 体験・学び・感動の修学旅行セミナー」 ～和歌山県「ほんまもん体験」の修学旅行～

・本県では、自然、歴史、文化、伝統産業にありのまま触れる「ほんまもん体験」プログラムを用意して、修学旅行・体験学習の子供達を受け入れています。

「体験・学び・感動の修学旅行セミナー」では、子供達にとって望ましい体験のあり方を全国に広く提案して、思い出に残る修学旅行を演出していく予定です。

・昨年は、旅行会社、学校関係者を始めとして、259名の参加がありました。今回のセミナーは、8月7日に大阪（梅田）で開催し、8月22日には、東京（虎ノ門）で開催する予定です。

・東京会場では、東京都立国立高等学校の矢崎教諭による「自然の優しさ・厳しさ・すばらしさを体験した和歌山修学旅行」と題して事例発表をして頂きます。また、和歌山東漁業協同組合吉田代表理事組合長が、「和歌山のほんまもん体験」のセールスを行なう予定です。

* 「ほんまもん体験を活用した修学旅行」に和歌山県を訪れた学校数
平成17年度 1校、平成18年度 5校、平成19年度 5校、
平成20年度（現在まで）13校

- ① 2008食肉産業展【地鶏・銘柄鶏食味コンテスト】で「紀州うめどり」が最優秀賞受賞！
- ②「紀州うめどり・うめたまご」の取組が農商工連携88選に認定！

①【地鶏・銘柄鶏コンテスト】

・コンテストは食肉産業関係8団体で構成される食肉産業展実行委員会が主催し、一般来場者の試食を通じてマーケットの潮流を探ることを目的に開催されました。(5回目)
 ・審査は来場者350名の投票により「見た目」、「食感」、「食味」、「好感度」の4項目で判定し、「紀州うめどり」は「見た目」、「食感」、「食味」で第1位、「好感度」が第2位となり総合評価で最優秀となりました。

<コンテスト参加地鶏・銘柄鶏>

地鶏・銘柄鶏名		
①紀州うめどり	(和歌山県)	【最優秀賞】
②みやざき地頭鶏	(宮崎県)	【優秀賞】
③三河地どり	(愛知県)	【優秀賞】
○純国産鶏種たつの	(鹿児島県)	
○完熟味鶏	(佐賀県・長崎県)	
○どんぐり鶏	(鹿児島県)	

<出品者>関西ブロイラー株(紀の川市)
 (紀州うめどり・うめたまごブランド化推進協議会員)

②【農商工連携88選】

・農林水産業と商工業等が連携して、それぞれの技術や特徴等を活用している先進的な取組を広く紹介することを目的に農林水産省と経済産業省が共同で『農商工連携88選』の取りまとめを行いました。
 ・応募件数は全国で240件あり、その中で近畿地域では9件の取組が選ばれ、和歌山県においては【株式会社 紀州ほそ川(代表者 細川 清)】の『地元特産品を活用した飼料・鶏・卵の開発』の取組が唯一選定されました。これは、「紀州うめどり・うめたまご」の取組活動が高く評価された結果です。

【紀州うめどり・うめたまご】

本県の特産品である梅干しの製造時に副産物として出来る“梅酢”を活用して養鶏に応用することにより品質の高い鶏肉・鶏卵生産に繋げることができないかという発想のもと、県養鶏研究所とみなべ町の梅加工業者との共同研究により平成15年に生まれたものが新しい和歌山ブランド「紀州うめどり・うめたまご」です。平成17年度より『紀州うめどり・うめたまごブランド化推進協議会(会長 細川 清)』が設立され、生産者、加工販売業者等11名により生産拡大、販売促進活動等を行っています。

○特徴

最大の特徴は健康で、梅酢を混ぜた飼料で育てられた鶏は、内臓脂肪が減少し、とっても健康になります。また、鶏肉では味、香り、歯ごたえとも優れたものとなっており、鶏卵では卵質の向上、有用物質の増加が認められています。

○出荷状況

うめどりは年間150万羽、うめたまごは年間550tが出荷されており、県内外のスーパー等約100社と取引を行っています。

●和歌山県立図書館開館100周年を迎えました

- ・和歌山県立図書館が開館100周年を迎えました。初代と2代目の図書館は和歌山城内にあり、現在の3代目は、平成5年、旧和歌山大学跡地（西高松）に開館しました。
- ・仁坂知事は、100周年記念式典の挨拶で「多くの文化人を輩出した図書館の百年の歩みが私たちの心の誇りではないかと思っております。」と祝辞を申し上げます。



初代（明治41年 和歌山城内に開館）



2代目（昭和13年 和歌山城内に開館）



3代目（平成5年 西高松（旧和歌山大学経済学部跡地）に開館（愛称 きのくに志学館）

100周年記念として特別展示が、図書館で行われます

—写真でみる県立図書館のあゆみと特別資料展—

平成20年7月11日（金）～8月31日（日）

（月曜日は除く）

展示する貴重資料

- ・ 津本陽氏資料・佐藤春夫書簡・徳川吉宗書簡
- ・ 陸奥宗光書簡

●和歌山県サーフィン連盟がスポーツ団体としては全国で初めて「海の日」大臣表彰を受賞されました

・日頃お世話になっている海に感謝の気持ちを伝えたい。そんな気持ちから生まれた「ビーチクリーン活動（海岸周辺の清掃活動）」の功労により、「和歌山県サーフィン連盟」が、スポーツ団体としては全国で初めて「平成20年度「海の日」大臣表彰」を受賞しました。

・和歌山県サーフィン連盟は、サーフィン競技のスポーツ振興を図るだけでなく、夏期の海岸周辺の夜間巡回や津波の避難経路や海でのマナー、ルールを示した磯ノ浦海岸ハザードマップの作成、サーフィンを身近に親しんでいただくための幼稚園や小学校のプールを使った教室等いろいろな事業に取り組まれています。

・授賞式は、さる7月25日に海運クラブ（東京都）で行われました。

●仁坂知事が、中学・高校生へ、和歌山の未来について講演。生徒からは、「僕が知事になったら」の政策提言〔平成20年7月14日和歌山市内〕



・本年3月に「和歌山県長期総合計画～未来に羽ばたく元気な和歌山～」を策定したことを受け、5月の長計PR月間に引き続き、仁坂知事が中学・高校生約1,340人に和歌山県長期総合計画についての講演を行いました。



- ・聴講した生徒からは、「僕が将来知事になったら」と題し、“宇宙産業を誘致してはどうか！？”というプレゼンテーションが行われました。仁坂知事も、夢のある政策提言にとても感銘を受け、生徒たちに政策形成のアドバイスなどを行いました。

※ 「和歌山県長期総合計画～未来に羽ばたく元気な和歌山～」は、和歌山県東京事務所、和歌山県庁企画総務課、各振興局で配付しています。

※ また、送付先住所・氏名を明記の上、返信用切手（本冊290円、概要版200円）を同封し、申し込み先まで郵送していただきますと、本冊や概要版を返送させていただきます。

申し込み先 640-8585 和歌山市小松原通1丁目1番地

和歌山県庁 企画総務課「長計パンフレット」係

※ 「和歌山県長期総合計画～未来に羽ばたく元気な和歌山～」は、県庁ホームページでも公開しています。（アドレス：<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020100/chokei/chokei.html>）

●第29回オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会（2008／北京）県関係出場選手の紹介

・中国北京において開催されるオリンピック（8月8日～24日の17日間）及びパラリンピック（9月6日～17日の12日間）への和歌山県ゆかりの出場者を紹介します。

- ・みなさんがご活躍し、北京で「君が代」が流れることを期待します。

○オリンピック出場選手（4名）

- ・湯元 健一（ゆもと けんいち）選手（出場競技：レスリング（フリースタイル60kg級））
- ・小林 寛美（こばやし ひろみ）選手（出場競技：水泳（シンクロ））
- ・上村 美揮（うえむら みき）選手（出場競技：体操）
- ・宮崎 義仁（みやざき よしひと）監督（卓球）

○パラリンピック出場選手（2名）

- ・中村 智太郎（なかむら ともたろう）選手（アテネパラリンピック銅メダリスト）
（出場競技：水泳（100m平泳ぎ））
- ・大橋 健次（おおはし けんじ）選手（出場競技：射撃）

●第3回親と子どものためのきらめき“夢”トーク、竹中平蔵慶 応義塾大学教授を迎え開催

・様々な分野のオピニオンリーダーを招き、講演と参加者とのトークを交えた第3回「きらめき“夢”トーク」を田辺市内で開催しました。

・今回は「経済を見る目、社会を見る目」をテーマに、和歌山県出身で、仁坂知事と桐蔭高校で同学年であった、竹中平蔵慶 応義塾大学教授をお招きしてご講演をいただきました。

・講演内容の、1つ目として、海外で貧しい生活をしている子どもたちの事例を紹介されました。読み書きのできない子どもたちの生活を目の当たりにして、「世の中が豊かであることはすごいことだ」と思ったことと「経済の重要性」について話されました。2つ目として、「経済の話は身近である」という内容で、「CDケースとDVDケースはなぜ大きさが違うのか?」「牛乳パックはなぜ四角なのか?」「車の給油口は左右どちらについている?」など参加者に問いかけながら、世の中は経済的に考えると面白いということが紹介されました。

3つ目には、「経済には絶対的な正解がない」という話。その時の状況で、何が一番いいかは変わってくる。世の中も同じように総合的に判断して決めないといけない。「考える」「議論する」ことが経済にとっても人生にとっても重要だという話を語られました。

・最後に大臣の経験から「パッション」(情熱)の大切さについて熱く語られました。また、フリートークの時間には、生徒から「800兆円の借金は返せますか?」「食糧自給率を上げるにはどうしたらいいのでしょうか?」「消費税を上げた方がいいと思いますか?」「原油高をどう思いますか?」など、今の時代に即した質問が、多く出され、竹中教授は、専門的な話をユーモアたっぷりに返答されました。



●スポーツ・温泉医学研究所を開設

・県立医科大学は7月12日、那智勝浦町立温泉病院内に開設した「スポーツ・温泉医学研究所」の開所式を行いました。

・同病院は温泉を引き、入院患者の入浴及びリハビリテーションの温泉療法を行っているが、リハビリ施設が充実していることから、リハビリの医学的知識を持った医師及び理学療法士の配置により、今後、プロスポーツ選手の利用が期待できます。

<研究内容>

- 1) 「スポーツ」と「温泉療法」を主眼とした、身体全体にわたる医学的研究を行う。
- 2) 魅力ある地域医療を構築し、研究者に知的好奇心を抱かせる研究と臨床の場を提供する。
- 3) 「温泉」をテーマとした医学的研究制度の充実。

<研究所の概要>

研究所長：県立医科大学リハビリテーション科 教授 田島文博

研究スタッフ：県立医科大学教員2名(教授(所長)、研究員)

共同研究者3名(町立温泉病院医師2名、同理学療法士1名)

内容：研究室 運動実験室、解析室、検査室(3室=100㎡)

設備等 超音波診断装置、生態情報測定装置

●株式会社コズミックランドが白浜町に進出

- ・東京都に本社がある(株)コズミックランドが白浜町にある旧保養所施設を改修し、デザインルームやゲストルーム等を備えた白浜スタジオ(仮称)を新設することになりました。
- ・同社はTシャツ・トレーナーを中心とした衣料品の卸売企業で、有名なアパレルメーカーのOEM生産(他社ブランドの製品を製造)を中心に行っており、自社ブランド「オールドライナー」の販売も展開しています。
- ・今回は、優秀なデザイナーの確保と育成に風光明媚な国内有数のリゾート地である南紀白浜が適していると判断したものです。

【会社概要】

代表者：田中秀明（和歌山県出身）

所在地：東京都渋谷区神宮前4丁目1番18号 セゾン原宿

売上高：17億5千万円（H19.9月期）／従業員数：15名

業務内容：アパレル（Tシャツを中心とした衣料品の卸売）

- ・ OME生産 コラボレーション「ラウンドリー」
ライトオン「ユニバイブズ」
- ・ 自社ブランド OLDLINER

【進出計画】

事業所名：白浜スタジオ（仮称）

場 所：白浜町の保養所跡（旧「紀洋閣」、旧「日本生命保養所跡地」）

規 模：3年間で正社員10名雇用予定／投資額：1億5千万円

内 容：グラフィックデザインルーム及びゲストルーム、ショールーム、
撮影スタジオ、新商品開発研究所

進出予定：平成20年10月開設

●「わかやま中小企業元気ファンド」助成事業が決定！

- ・昨年12月に造成した「わかやま中小企業元気ファンド」の第1回募集を行い、助成対象事業34件（助成総額 8,923万円）を決定しました。

【わかやま中小企業元気ファンドとは？】

活力あふれる元気な和歌山県を実現するため、地域経済を支える中小企業を育成・振興し、足腰の強い産業創出を目指すもので、（財）わかやま産業振興財団が年間約1億円の運用益を県内の中小企業育成に活用する制度です。

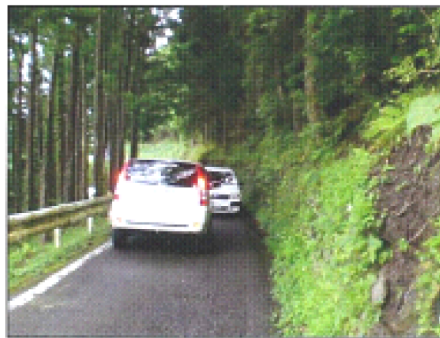
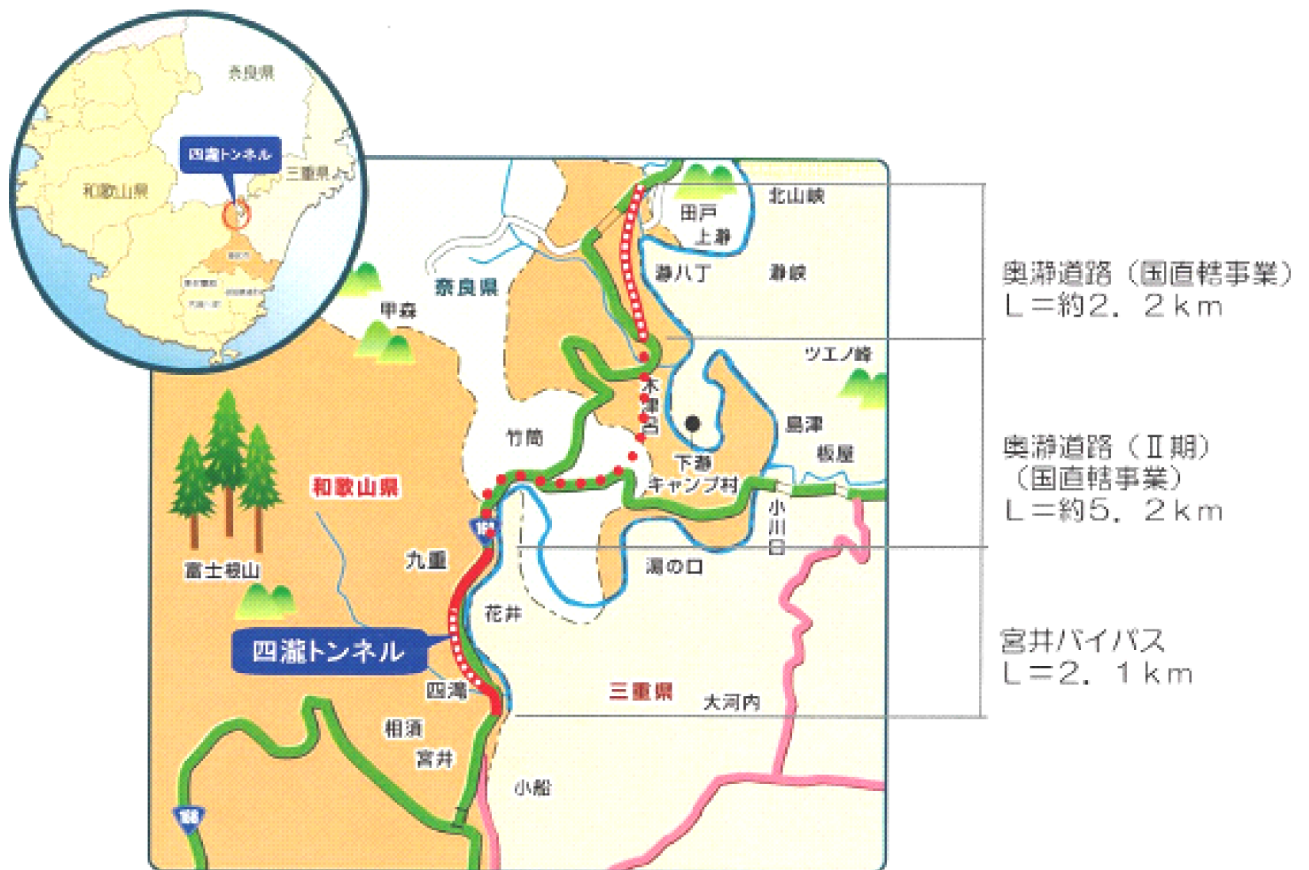
*なお、「わかやま中小企業元気ファンド」の詳細につきましては、産業振興課ホームページ
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/060300/gyoumu/fund/fund.html>
 わかやま産業振興財団ホームページ
<http://www.yarukiouendan.jp/fund/index.html> をご覧ください。

《助成対象事業》

- ① 地域資源活用支援事業 19件
 <主な事業>梅グラッセの開発、火付きの良い成型備長炭の開発、紀州加太の鯛の薫製の開発
- ② 新産業育成支援事業 6件
 <主な事業>ハナビラタケ配合化粧品の開発、スギ葉オイルの事業化研究
- ③ 産業支援機関事業 9件
 <主な事業>ジャバラを素材とした健康食品への取り組み、足赤海老・鱧のブランド化、「こうや山麓ブランド」創作&研究

●国道 169 号「四瀧トンネル」と奥漣道路「漣峡トンネル」が同時供用北山村へのアクセスがずっと便利に！また、周辺地域の救急防災性が飛躍的に向上

- ・7月12日に県が事業主体となってきた、国道169号宮井バイパスのうち「四瀧トンネル」が開通しました。また、同時に、奥漣道路（国直轄事業）の漣峡トンネルを含む2.2km区間が開通しました。
- ・今回の同時開通により、北山村へのアクセスが格段に良くなるとともに、災害時や緊急時における交通を確保することが出来るようになり、地域住民の安心と安全が図れます。



すれ違いが困難な現道



改良済み区間の状況

●和歌山県インターネット放送局がいよいよ開局します！

・8月28日（木）に、和歌山県の情報を動画配信するホームページ「和歌山県インターネット放送局」が開局します。「ユーチューブ」を通じた情報発信は都道府県では、本県が初めての取り組みです。

・7月号の「わかやま便り」でもお知らせしましたが、開局を記念して、本県出身の坂本冬美さんによる特別メッセージ映像を配信します。

・また、インターネットの動画投稿共有サイト「ユーチューブ」を通じて観光や県産品などの情報を配信します。

●和歌山県インターネット放送局は、県ホームページ「和歌山県情報館」のトップページからアクセスできます。

「和歌山県インターネット放送局」のURL→ <http://www.pref.wakayama.lg.jp/nettv>

●在京和歌山県人会創立50周年記念総会が7月13日に開催

- ・在京和歌山県人会の創立50周年記念総会が会員450名の出席のもと盛大に開催されました。
- ・来賓として出席した仁坂知事は祝辞の中で、和歌山県政の状況を報告しました。
- ・また、懇親の部では本県出身の坂本冬美さんをゲストに迎え、新曲「紀ノ川」などが披露されました。



根来会長



仁坂知事

●南紀白浜空港アクセスガイドの作成について

- ・南紀白浜空港を利用して、和歌山県に観光に来られる方々の利便性に配慮して、飛行機の発着時間にあわせた、県内各方面へのアクセス時刻表を作成します。（携帯に便利なポケットサイズになります。）
- ・現在印刷中ですが、出来次第、南紀白浜空港、わかやま喜集館に配布します。どうぞ活用下さい。



まるがじりわかやま

和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

初夏のご馳走、^{はも}鱧の季節です！

漁師歴50年以上のベテラン、海南市下津の戸坂漁協の坂本組合長さんに鱧漁のことを語っていただきました。

戸坂の鱧の漁期は5月上旬から8月末までで、特に5月から7月中旬にかけて獲れる雌の鱧は、卵をもっていて味が一番いい。戸坂の延縄漁で釣りあげた鱧は傷みが少なく鱧のなかでもブランドなんや。鱧は夜行性なので漁に出るのは夕方4時。漁場の紀伊水道へ向けて出港し、帰ってくるのは朝4時になる。

最近では船の燃料が高騰しているのが悩みですね。それでも今年の鱧漁は、例年通りよく獲れているから、旬のおいしい鱧をぜひ味わってほしいですね。



鱧の生産量は全国で第6位！

和歌山県の鱧の漁獲量は、平成18年で238tと、全国で第6位（下表）。10年前の平成8年では40tだったものが年々漁獲量が増えてきています（「平成20年和歌山の水産」より）。

（平成18年 鱧の漁獲量ベストテン）

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
はも 単位：t	兵庫 931	徳島 581	大分 476	愛媛 465	山口 334	和歌山 238	熊本 187	宮崎 134	長崎 97	鹿児島 95

へえ～、なるほど！鱧のQ&A

(Q. 1) 鱧の名前の由来は？

(答え) 鱧の裂けた口先の様子から、「咬（か）む」、「食（は）む」が訛って「ハモ」になったとか。味は上品なのに、意外と獐猛。つかもうとするものなら、鋭い歯でガブッと咬みつくよ！

(Q. 2) ハモとアナゴはよく似ているけど兄弟？

(答え) はい、同じウナギ目で、ついでに言うとウツボも同じ仲間、いわゆるウナギ3兄弟ですね。味わい方もそれぞれ個性的。とっても美味しい兄弟なのです。



お待たせ！上品な白身、鱧料理

鱧と言えば、京都の祇園祭りや大阪の天神祭りを想像する人も多いはず。俗に「鱧は梅雨の雨を飲んでおいしくなる」と言われるように夏祭りの頃が一番おいしいのです。

食欲が落ちる夏の暑い頃、梅肉や辛子酢味噌でさっぱりと食べるとたちまち元気になれるそうですね。ちなみに8月3日は”鱧の日”です！

ここで一品提案！

家庭風に食べるならハモ鍋はどうでしょうか。だし汁で煮込み、具はハモの切り身となんと言っても玉ねぎ。鱧の歯ごたえと玉ねぎの甘さがうまくマッチ。あまり煮すぎないのが美味しい食べ方です。



君の名は「はもの落とし（湯引き）」。
白い切り身に思わずうっとり。

骨切りはどこからやってきた？



鱧料理といえば関西が中心で京都で花開いた文化。その昔、新鮮な魚が入りにくかった京都で、鱧だけは生き活きとして生命力の強さを感じ、重宝されました。しかし鱧には体じゅうに骨があり、煮ても焼いても食べられない。しかし、おいしい鱧を何とかして食べたい。そこで考えられたのが「骨切り」なのです。

夏のご馳走はなんと言っても鱧料理。日本全国に広まってほしいなあ。

地元の料理店でお話をうかがいました

鱧は頭も骨も一匹まるごと調理できる魚なんですよ。うちでは、鱧のフルコースをお出しして（はも）るんです。白身はおいしいのはもちろんですが、鱧子（鱧の卵）の煮付けもお勧めです。ふんわり柔らかい食感は大人から子供まできつとりこになるはずですよ。

（鱧料理情報ならココ→ <http://www.nnc.or.jp/~yosizuki/>）



鱧子の煮付け

●和歌山県の芸能関係 3 本柱をご紹介します。

「パンダフルライフ」いよいよ上映開始

(8月30日松竹系全国ロードショー)

映画の舞台は、和歌山県白浜町と中国の四川省です。映画では、頼もしいお母さんや慣れ親しんだ飼育員と離れ、見知らぬ土地で暮らすことになる2頭の兄弟パンダの別れと成長が、ドラマチックに描かれています。

水戸黄門でおなじみ里見浩太郎さんが、
「稲むらの火 濱口梧陵小伝より」を歌う。

7/21には里見浩太郎さんの新曲発売記念ミニコンサートがJR京都駅ビル室町小路広場で開催され、西日の差す暑い野外にもかかわらず、約1500名ものファンが集結。握手会も開かれるなど、大盛況でした。地元からは応援団(白倉広川町長、町議会、観光協会、商工会など総勢40名)がマイクロバスで駆けつけ、「稲むらの火の館」などのパンフを配付し「稲むらの火の舞台、広川町」をPRしました。

坂本冬美さん故郷和歌山を思い「紀ノ川」を歌う。

坂本冬美さんが、有吉佐和子氏の同名小説で、3代にわたる女性たちの生き方を描いた作品を題材にした「紀ノ川」をリリースしました。坂本冬美さんは、「紀ノ川」という曲を通して「ふるさと和歌山」を全国の皆さんにより一層知っていただきたいとおっしゃっています。

～ 世界遺産（歴史・文化の物語） 高野町 ～
空海（弘法大師）が開いた霊峰高野山

平成16年7月7日に高野山は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されました。

高野山は、およそ1200年前に、空海（弘法大師）によって開かれた、真言密教の修行道場であり、真言宗の総本山です。標高、およそ900m。山の上の盆地にある聖地、壇上伽藍。

そこには、さまざまなお堂や塔が立ち並び、仏像や曼陀羅が参拝者を迎えます。

また、うっそうと杉の樹の茂る奥の院には、豊臣秀吉織田信長など武将達や、さまざまな人々のお墓が宗派を問わず立ち並んでいます。

8月13日には「高野山万燈供養会（まんとうくようえ）」（ろうそく祭り）が開催され、1000年近く燃え続けているという「貧女（ひんにょ）の一灯」から移された10万本のろうそくが一の橋から弘法大師御廟まで続きます。

* 「貧女（ひんにょ）の一灯」：貧しい娘が両親の供養にと、黒髪を売って供えたとうろう。

秋篠宮悠仁さまのお印に決まった、「高野槇（こうやまき）」。本州、四国、九州に分布する常緑針葉高木で、特に和歌山県の高野山に多いため、その名が付きました。皇居内や、秋篠宮ご一家のお住まいがある赤坂御用地内にも植樹されています。

胡麻豆腐と高野豆腐

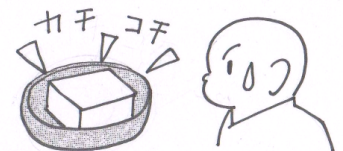
胡麻豆腐



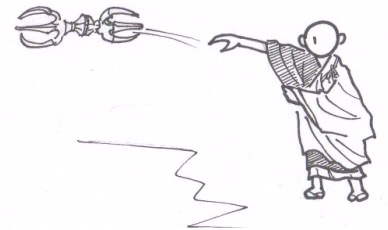
胡麻豆腐は、その名の通り、胡麻をすりつぶし、葛を合わせて固めたものです。

高野豆腐は、別名「凍り豆腐」と呼ばれます。ある寒い冬の日、高野の修行僧が豆腐を井戸端にうっかり置き忘れ、カチカチに凍らせてしまいました。でもその豆腐を溶かして煮てみるととても美味しかったことが高野豆腐の始まりだという話が残っています。

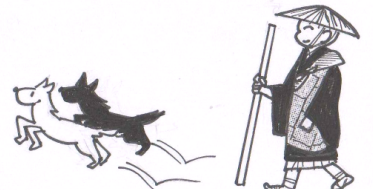
どちらも精進料理には欠かせない、僧たちにとって重要なたんぱく源でした。



高野山は、涼しくしのぎやすいことから、夏休み中の林間学校や観光客で賑わっています。宿坊では、写経や座禅の体験も出来ます。霊峰高野山で日常の世界を離れて、瞑想に耽ってみては？



唐で密教を学んだ空海は、帰る時、密教を広める土地を思いながら、日本に向かって三鈷を投げた。



三鈷がとまったのは高野山の松の木（三鈷の松）。帰国し山で2匹の犬に案内され、空海はその松を見つけ、高野山を真言密教の道場に決めた。

～編集後記～

【全国高校野球大会壮行式】

7月28日、県庁の正面玄関前広場で、第90回全国高校野球大会に出場する智辯学園和歌山高校の壮行式を秘書課主催で開催しました。

仁坂知事から「春8度に対し、夏は4年連続16度目の甲子園出場。智弁和歌山は夏に強い。体調に気をつけて頑張ってください」と激励があり、勝谷主将からは、「県の代表校として正々堂々とプレーし、和歌山に優勝旗を持ち帰りたい」と力強いあいさつがありました。

このチームの特徴は、準決勝まで4試合連続本塁打を放った4番坂口選手を中心とする切れ目のない強力打線が売り物で、3度の甲子園出場を果たした左腕の岡田投手もピッチングに安定度を増し、投打にバランスの取れたチームに仕上がっています。

春の選抜はベスト8。今回は優勝を狙って頑張ってもらいたいと思いますので、読者の皆様も応援よろしくをお願いします。

私は、夏の甲子園大会といえば、今も感動深く心に残っている試合があります。それは、昭和54年第61回大会3回戦の箕島高校対星稜高校（石川県）の対戦です。高校球史に残る名勝負だったと思います。

星稜高校の先攻で始まり、9回を終わって1対1の同点。試合は延長に入り、12回の表に1点先取され、箕島高校の攻撃も2アウト。万事休すかと誰しもが思ったとき、キャッチャーの嶋田選手が、「監督、ホームランを狙ってきます」といって本当にホームランを打ってしまった。これが奇跡の始まりです。16回の表にも1点先取され、箕島高校の攻撃も2アウト。今度こそ箕島の夏は終わりかと思った矢先、森川選手がまたしても左中間スタンドにホームランをたたき込み試合を白紙に戻しました。この時実況していた朝日放送の植草アナウンサーは「甲子園球場に奇跡は生きています！」という名言を残しました。試合結果は18回に箕島高校の上野選手のタイムリーでサヨナラ勝ちを収めました。この年、徳島の池田高校と決勝戦で対戦し、逆転勝利を収め見事全国制覇を果たしました。

私は、あの試合を思い出すたびに、あの夏の熱い感動が蘇るとともにあのような素晴らしい感動を与えてくれた尾藤元監督や当時の箕島高校のナインの皆さんに感謝の想いが込み上げてきます。

今回出場の智辯和歌山の選手の皆さんにも、あの当時の箕島高校のような粘り強い試合運びで、優勝旗を和歌山に持ち帰ってもらいたいものです。

「あの感動をもう一度！！」

知事室秘書課長 鈴木敏彦

「和歌山だより（8月号）」はいかがでしたか？

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援寄附

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2008年（平成20年）8月 NO.5

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022